



AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (J S O)

No.142

AA 75周年 2010 インターナショナルコンベンション

2010年7月1, 2, 3, 4日 アメリカ合衆国 テキサス州サンアントニオ

アノニミティと国際コンベンション

NY・GSO BOX459

Vol.56 No.1 Spring2010 より翻訳転載

アノニミティはよく AA メンバーが世間の衆目に対してまとう「マント」もしくは「保護的な覆い」であると表現されます。アルコールリズムという病気は常に汚名を着せられていますから、アルコール自身そしてこれから彼らの助けを求めるだろう仲間を社会の厳しい目から守るために、初期のメンバーはアノニミティが与える控え目な保護を求めたのです。

12&12のなかの伝統12に書かれていますが、ビル Wは「けれども最初に名前を明かさないとの方針が生まれたのは信頼からではなかった。それは、初期のころ私たちが抱いていた不安の産物だった。最初の無名の AA グループは、秘密結社だった。新しい人は、ほんの数人の信頼できる知り合いを通してしか、AAを知ることができなかった。ほんの少しでも世間に知られそうになると、それがただ AA の活動についてであっても、非常に動揺した。飲んでいたのは過去のことであるとはいえ、今もなお人々の不信感や軽蔑から身を隠さねばならないと思っていた」と書いています。

その初期の時代、アノニミティは非常に明確な意義を持っていました。しかし共同体の発展とともにアノニミティの概念も根を張っていき、ただ単に「隠れること」やメンバーであることを秘密にすること以上の意味を持ってきました。ビルはその後、伝統12のなかでアノニミティの原理の進化について書いていますように「アノニミティは真の謙遜の実践であることが教えられた。これが今日、AAの生き方の基調をなす、あらゆる面に浸透した霊的な特性である。アノニミティの精神に心を動かされた私たちは仲間のアルコールのなかでも一般の人たちの前でも、自分を目立たせたいという欲求を AA メンバーとしては放棄しようと努力している。これらの非常に人間的な欲求をわきに置くことによって、私たちの一人ひとりがこの集まり全体を守ってくれるマントを織り上げる仕事の一役を担い、そしてそのマントのなかで、ともに成長し、ともに活動していけるのだということを、信じている。」

アノニミティのという私たちのプログラムの真髄にあるこのユニークで力強い原理は、個人そして共同体全体にとって「AAが持ち得る最大の安全保障」へと進化を遂げたのです。

このアノニミティの進化は、世界中のアルコールに日々の生活レベルにおける助けと道しるべを与えると同時に、来る2010年国際コンベンションメンバーのため、仲間みんなが集うための準備を進めているテキサス州サン・アントニオにおいても特別な重要性を持ちます。何万人ものメンバーがまもなくサン・アントニオの街を練り歩き、自身の回復を語りそして文字

通りバッジのように纏うこととなりますので、アノニミティの霊的な質がなくなって重要性を帯びます。

過去のコンベンションにおいて GSO とその開催都市の実行委員会はコンベンションが開催されるかなり前から地元マスコミに AA のアノニミティの伝統を伝えることに骨を折ってきました。これらの努力によりたくさんの AA、アラノン、そしてアラティーンのメンバーが街を「乗っ取ってしまう」状況下で、メディアや他の場合においてアノニミティが侵害されてしまうことを防いできました。そしてサン・アントニオも例外ではないでしょう。

しかしメディアへの働きは方程式のほんの一部に過ぎません。そして AA メンバー自身が自分自身そして他の仲間のアノニミティの原理を守る究極の責任者であるのです。

AA の伝統11と12に記されているアノニミティの原理をどう遵守していくかについてメンバーによって見解が異なるかもしれませんが、以下、サン・アントニオで開催される75周年でのこれらの原理の実践についていくつか提案させていただきます。

写真

他の仲間への配慮のため、いかなるミーティング中でも写真は撮るべきではありません。AA ミーティング中に写真を撮ることは多くの仲間にとってこの集いが外部に対して秘密であることについて不快感を与えるかもしれません。この配慮はコンベンションの他の会場においても同様になされるべきで、本人の承諾を得ていない、またコンベンション関連のいかなる写真に写りたくないと思っているメンバー、その家族、関係者が写真に撮らないようにする注意を払うべきでしょう。

インターネット

AAの伝統11の長文のものにあります「AAメンバーとして、われわれの名前や写真を電波、映画、出版物などに載せてはならない」を守るために、アクセスが無制限のソーシャルネットワークワーキング (SNS) を含む一般にアクセス可能なウェブサイトには誰とわかるように AA メンバーの写真を掲載することは避けるべきです。

媒体がなんでもあれ、個人のアノニミティに関して言えば、メンバーと AA との関連を明らかにすることはそのメンバー本人においてすべきことではありません。1946年1月号のグレイブパインでビル Wは以下のように書いています。「その本人が望むように個人のアノニミティを守り、覆いに隠れることができるのは AA メンバーそれぞれの特権であるべきだ。仲間はそのメンバーの願いを尊重すべきであり、どのような態度を取ろうともそれを守ることを手助けすべきである。」

関東甲信越地域、第15回評議会報告会

2010年関東甲信越後期評議員 堤

5月30日の日曜日、午後1時から3時半で、今年度最初の「評議会報告会」が長野地区にて行われました。出席者は地区メンバー14名、評議員6名で、前半で今年の2月に行われた第15回評議会の分科会別報告、休憩を挟み後半が質疑応答とか評議会への議題提案の方法の説明などでした。昨年もそうでしたが評議会報告書がグループに届いてから報告会をというやり方のため、5月末というのは報告書到着ギリギリで間に合うかどうか心配でしたが、なんとか直前の木曜日に到着して安心した次第でした。

5月23日の地域委員会当日で、地域では長野地区を含め24地区中19地区で報告会開催が決定しています。他の18地区は全て7~8月の予定です。報告書到着から9月10日の次回評議会議題提案締め切りの間に行いたいという要望のため、暑い夏がさらに暑くなるわけです。短い期間でできれば全地区でということで合同開催のお願いもしてしまして、単独開催は長野、山梨、千葉、新潟、にし城西の5地区で神奈川4地区、多摩4地区、埼玉3地区、東京区部6地区中3地区は合同開催の予定です。未決定の5地区のうち2地区は開催しないと決まっていますが、後の3地区はこれからの地区委員会でどうするか決めるということになっています。昨年は23地区中17地区、一昨年は21地区中14地区で開催されました。2008年以来毎年地区分割で地区数が増えているのですが、それ以上に開催地区も増えています。

ご存知のように関東甲信越地域は他地域と異なり、日本のAAのサービスの歴史的経過により全国のグループ数の約4割を占めていて、評議員数も同様に20名中8名と4割になっています。個人で全地域を掌握するのは大変（アメリカ・カナダを省みれば別ですが）なのでこれまでも担当地区を各自が持つ（1999年以来）形になっていましたが、今年は丁度3地区ずつの担当となっています。評議会の開催報告自体は各担当評議員が各地区に対し行えるわけですし、その際ちょっと詳細に報告を行うことも可能です。

かつてはこのような形で担当評議員が担当地区委員会で報告するスタイルが一般的だったと思います。しかし評議会の報告そのものだけでなく、地域の評議員は全員その地域の地域集会で選出されたわけで、担当地区で選出されたわけではありませんから、顔を出すべきだろうと考えられます。そういうことでできるだけ重ならないよう各地区に報告会を開いていただいて、できれば地域の全評議員が出席する、というスタイルに変わってきたのだと思います。何年か前、地域委員会議事録に「担当評議員が来てくれました」という記述が盛に記されていた時期がありました。地区担当制ができてから何年か後のことです。現在ではそういう記述は皆無です。評議員が担当地区委員会に出るのは当たり前になったからです。私が代議員になったころ、誰が評議員なのか全く判りませんでした。あまり興味もありませんでしたけれどもね。またミーティングなどでもご自分が評議員だとか常任理事なのを隠すような風潮があったように思います。やはりその役割を任せられている間は顔をさらし続けるべきだと考えます。そうでなければ開かれた評議会にはなら

ないだろうと思います。

もうひとつ報告会を地区単位で開催していただきたい理由として、地区委員会のあり方があります。ほぼ全国的に地区委員会自体は代議員で構成されていると思われます。でその代議員ですがサービスマニュアルとかAAのサービス関連書籍の中の代議員と、現実に日本の地区委員会を構成している代議員さんたちとは別物のように見受けられる時があるような気がいたします。かつての私自身もそうだったような気がしますが、これも日本のAAの地区委員会の歴史的経過であり、先人が色々と務めてこられた結果ですから、現在のありようを決して否定するわけではありませんが、マニュアルにあるような本来の姿を忘れてもらってもまた困るわけです。

概念1にもあるように「究極の権威はグループ」であり、概念2でその権威を評議会に委ねる「グループのゼネラルサービスの代表者が代議員」ですから、そのことを忘れて欲しくは無いのです。そうであることを念頭において現実の地区委員会を運営していただき、年に何回かは、大きな意味での「評議会」には「代議員も含まれている」のだと言うことを評議会報告会で確認していただきたいわけです。

地区を回っていると結構大きな比率で「評議会なんか関係ない」という代議員さんにお目にかかりますが、単にグループの代表として地区委員会に出て地区委員会だけのグループの一票を行使するだけでしたら、地区委員会の取り決めにもよるとは思いますが、代議員である必要はないわけです。

そういうことで関東甲信越の評議員は評議会報告会そのものの開催のお願いとともに、それを補完するために代議員オリエンテーションにも力をいれ、各地区にお願いしています。過去の評議会報告書のカントリーレポートを拝見すると、どの時期の評議員も同様の思いを抱いていたことが推察されます。関東甲信越ではその思いから2003年の評議員連絡会から代議員オリエンテーションが始まり、現在ではオリエンテーション開催も地区単位でお願いし、報告会同様できるだけ多くの評議員が参加するようにしています。

最後に代議員さんたちへのお願いです。代議員、地区委員、評議員とも任期は2年ずつです。代議員を2年間きちんとやり、その中から必ず誰かを地区委員として選ぶ。地区委員も2年間きちんと務め、その中から必ず必要な数の評議員を選ぶ。代議員と地区委員の兼任は避ける。「無償で与えられたものは、無償で返す」わけで、こういった形が日本のAAできちんと行われていくと、霊的ということが身近に感じられるようになり、日本のAAメンバーは何故増えないの？といった疑問も解決されるのではないかと考えています。サービスマニュアルというのは「経験の蓄積」です。ビッグブックによる回復の提案と同様に「やってみよう」ではありませんか。

浦和で会いましょう

AA関東甲信越矯正施設委員
東多摩地区 むさしのG トミー

去る平成22年5月29日と30日の両日に宮城県仙台市で行われたAA東北地域委員会・矯正委員会主催の「第一回A

A東北矯正サービスの分かち合い」にAA関東甲信越地域矯正施設委員の一人として参加させていただいたこと、深く感謝しています。

私自身、平成14年に入院していた精神病院からAAにつながるまでは、アル中・薬中で、前科持ちのチンピラヤクザの犯罪者でした。平成3年には3件の事件で執行猶予保護観察付き有罪判決を受け、平成8年には組織・関東地方から逃げ出し、中部地方で始めた長距離トラックドライバーの時に、関越高速道路出口で“6台玉突き”の重大事故を起こし「業務上過失致死罪」で府中刑務所の服役受刑者だった経験があります。

さらに、この平成8年にはお世話になっていた彼女の実家で、彼女の父親が自殺し、私たちは結婚もしないで私生児の娘を出産しました。事故後11年ぶりに養子縁組までして、家出した実母の元に彼女と娘を連れて帰るものの、刑務所服役をはさんで組織に舞い戻り、ますますひどくなっていった飲酒と薬物。そして、その金欲しさに詐欺や窃盗を働くようになりました。私がつらく当たったために娘を抱いて出て行ってしまった彼女を逆恨みして、中国にまで行って偽装結婚もしました。

自己憐憫と絶望の中でもがき苦しみながら病院、精神病院の入退院を繰り返しました。刑務所そして病院と、自分に、あとは死しか残されていませんでした。

AAにつながりスポンサーと出会い、矯正施設委員会に出会って今年で8年目を迎えます。今は黒羽刑務所、甲府刑務所、千葉県婦性会、国立武蔵病院医療観察病棟のメッセージに参加することを続け、関東甲信越地域矯正施設委員会の中でサービス活動をさせていただいています。

各地域で開催される矯正サービス関係の分かち合いには「是非参加したい!」と思っていました。そして今回、平成18年に中野サンプラザで開催された第1回AA全国矯正・保護施設フォーラムで経験した感動～グレープバイン矯正特集を手作りで翻訳し、監獄法改正前から、10年近くにわたり宮城刑務所にAAの書籍を送り続け、AAの《私の責任》メッセージ活動の大事さを熱く、希望を語る仲間の姿～との再会が仙台で果たされました。

「死刑囚のビッグブック（BOX916精選集第5集収録）」死刑囚監房でビッグブックを読み、スポンサーとステップを踏み続け、死刑執行一時間前に被害者の父親と話し、「本当にすみませんでした。これを言わせてもらえてありがとうございます」とSTEP9を実践できる喜びをもって死に赴くAAメンバーの話……本当の監獄の話にも感動しました。

自身の心の中の罪の意識から自由になる霊的状态……この私自身が受け取った希望のプログラムのメッセージを他の仲間に、苦しんでいる仲間に届けたい!という思いはますます強くなっています。

今年11月27、28日の両日に浦和で開催される第4回AA全国矯正・保護施設メッセージフォーラムでは各地域の仲間、そしてAAの友人、いつもご助力・協力いただいている関係者。大勢の皆さまとまたお会いし、分かち合えることを心より希望しております。

開催の詳細は追って皆さまにお知らせいたします。

常任理事会 矯正・保護施設委員会

Markings (NY・GSO発行のアーカイブニューズレター)

Your Archives Interchange Vol28.No1—Spring 2008

質：First Things First や One Day at a Time などの代表的なAA スローガンはどういう歴史を持っているのでしょうか。

答：AAのスローガンやアクリニム（頭字語）についての資料はそれほど多くはありませんが、一応の情報提供は準備できます。AAのさまざまな習慣と同じように、ほとんどのスローガンなどはメンバーからメンバーへ、口から口へと伝わってきたものです。だから、だれが何処で最初に使ったということはわかりません。もしかしたらその一部はオックスフォードグループの用語に由来があるかもしれません。あるいは、ビルやドクター・ボブ、そして草創期のメンバーたちのオリジナルな言い方だったかもしれません。

メンバーからいろんなスローガンの由来についての問い合わせはよくありますが、いつも正確にお答えすることはとても難しいと思います。私たちの研究の中で、以前のGSOアーカイブ担当者のフランク・Mが書いた1989年付けの手紙を見つけました。「One Day at a Timeの由来について、私たちも同様に興味を持っています。しかしながら、人間同士がいつ始めて手をつないだのかと同じぐらい、正確にその瞬間を指摘することは難しいことのようにです。」

残念ながら、AAスローガンのほとんどもこれと同じことのように、確かに言えるのは、スローガンの多くは、AAが始まった最初のころからずっと使われていたということです。

別なスローガンに関する質問に対して、AAの最初の事務局長であったルース・ホック（ノンアルコール）は1958年12月付けでこう書きました：

「私が初めてビル・Wと一緒に仕事したのは1936年1月で、当時ビルは1年ちょっとのソーバーでした。当時、「Easy Does It, Live and Let LiveやFirst Things First」は日常会話に使われていました。ビッグブックの草稿にも出ていましたが、どこから引用してきたものか、おそらくビル以外の誰にも分からないでしょう。

私が知っている限り、このスローガンのすべてがビル・W自身によってAAに導入されたものですが、彼がオリジナルに創作したものではないでしょう。あるものはオックスフォードグループのミーティングに利用されていたかもしれませんが、確実に知る方法はないでしょう。」

上記のルースの返事のほか、「Pass It On」の220ページにはこういうところがあります：

AAの「古諺」の内、一部の古いもの「First Things First, Easy Does It や ‘Live and Let Live」は1930年代後期から使われました。これらがビッグブック第1版（第9章「家族、その後」の最後のところ）に出てくるので、おそらくビル・Wが生まれ故郷のバーモント州から持ってきて導入したでしょう—古くからあった言葉に、新たに息を吹き込んだことになりました。

ONE DAY At a Time

AAの効き目？

「AA成年に達する」より第3章 日曜日の午後四時

p. 346～348から抜粋

AAは決して、新しい宗教の元祖であるとか創始者であるなどと、思い上がるべきではありません。AAの原理はどれも、どのひとつをとっても、古い典拠から借りてきたものである、ということを謙虚に思い起こしたいものです。私たちは素人であることを忘れず、善意のあらゆる人と、信条や国籍のいかんにかかわらず、すすんで協力する用意をいつも持っていなければなりません。

同様に、アルコールクス・アノニマスが万能薬であると思ひこむことも、たとえアルコールリズムに関してであっても、それは誤ったプライドの産物に違いありません。ここでは私たちは、医学界の人々に負っているものを思い起こさなければなりません。この人々とは友好的であるべきですし、そしてなにより、病んだ人々の助けとなるであろう医学的あるいは精神医学技法の、あらゆる新しい発展に対して、開かれた心を持つていることが必要です。そして、アルコールリズムの研究、リハビリテーション教育の分野の人々と、常に友好的でなければなりません。私たちはだれかを取り立てて支持すべきはありませんが、しかし、この人々のだれとでも、いっしょにやっつけける限り、すすんで協力する必要があります。宗教の専門家は聖職者であること、医学の実践は医師の仕事であること、そして私たち回復したアルコールクはそのアシスタントであること、このことを絶えず思い起こそうではありませんか。

人々の中には、アルコールクス・アノニマスは、スピリチュアル（霊的）な目覚めを世界中に伝えてゆく新たな先兵となるかもしれない、と予言する人々もいます。この友人たちのことばは寛容と誠意から出たものでありますが、しかし、このような賛辞と予言は、もし私たちがこれがAAの真の目的であると信じるようになり、そしてそれに従ってふるまい始めるならば、それは頭を酔わせる飲みものとなるであろうことを思い起こさなければなりません。従ってAAは、まだ苦しんでいるアルコールクにメッセージを運ぶというただ一つの目的を、用心深く守ってゆくでしょう。神が私たちに一つの分野でうまくやれるようにしてくれたからといって、自分たちが万人に救いの恩恵を運ぶ使命を授けられていると考えるような思い上がりには誘惑されないようにしたいものです。

一方では私たちは、決して閉ざされた団体にはならないようにしたいと思います。世の中のために私たちの経験が役に立つことがあれば、それを決して拒まず、ひとりひとりが人間の営みのあらゆる分野の要請に留意し、何か良いことができるなら、それらのことにAAの経験と精神を投入しようではありませんか。というのは、神が私たちがアルコールリズムから救ってくれたばかりでなく、世の中も私たちが市民として受け入れ、復帰させてくれたからです。それでもなお、逆説的ではありますが、アルコールクス・アノニマスそれ自体は自分のことに専念すればするほど、他に与える影響力は大きくなり、反対は少なくなり、人々の信頼と尊敬を享受できる範囲が広がるであろうということを、私たちは知らなければなりません。

第7回AA日本広報・病院・施設フォーラム

in 山形

2010年 8月28日（土曜日）

『アルコール依存症からの回復』

～AAをご存知ですか～

山形市総合福祉センター2階 交流ホール
山形市城西町2丁目2-22

2002年9月に関西地域 滋賀県近江八幡市で第1回広報・病院・施設フォーラムが開催されました。以後、各地域を一巡し今回の東北地域の開催を持って常任理事会が主催するフォーラムは一段落を向かえようとしています。それぞれの地域ではこのフォーラム開催を契機とし、地域性を重視した独自のフォーラムを展開しています。

AAのプログラムを多くの人に知ってもらいたい、とりわけ苦しんでいる人たちの周囲にいる家族、専門家、治療機関などに、AAで回復したモデルやその回復プロセスを伝えたいと願って始まったこのフォーラムも、なんとか一つの目標が達成されつつあるようです。

この大きな流れを大切に、今回の山形でのフォーラム開催を多くの地元メンバーの協力で実行いたします。

地域だけでなく全国のアルコール問題に関心ある方々、そしてメンバーの参加をお待ちしております。

プログラム

- 9:30～ 受付開始
- 10:00～ 開会
- 10:10～ AAの紹介
- 10:40～
金杉和夫先生（金杉クリニック院長）
AA（ノンアルコールク）常任理事
佐野琢也先生（公立置賜長井病院精神科科長）
- 11:40～ AAメンバーの話（2人）
- 12:10～ 昼休み
- 13:00～ AAメンバーの話（2人）
- 13:30～ プレゼンテーション
藤岡淳子先生（大阪大学大学院教授）
AA（ノンアルコールク）常任理事
小関清之先生（木の実町診療所副所長）
精神保健福祉士
- 14:40～ パネルディスカッション
- 16:30 閉会

※当日の都合により一部変更がある場合がございます。

編集・発行： NPO法人 AA日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休